中国知財・AI生成特許の「品質ゲート」ショック

専利預審（予備審査）における厳格化の実態と、
日本企業に求められるAIガバナンスの再構築



Gemini Notebook

中国特許出願における「AI直接生成」は、今や致命的なコンプライアンス違反である



表面化した処罰事案

2025年以降、中国の各地域「知的財産保護中心」において、AI直接生成を理由とした予備審査の不承認が多発。代理機構の業務停止や、出願主体（企業）の登録取消しという重いペナルティが実名で公表されている。



規制の真の標的

当局が問題視しているのは「AIの使用」そのものではない。人間の検証（ヒューマン・イン・ザ・ループ）を経ない出力が「真実の発明創出に基づかない（非正常出願）」と見なされる、厳格な品質管理構造が完成しつつある。



日本企業が取るべき防衛線

現地の代理人への丸投げからの脱却が急務。AI倫理規範に準拠した代理人選定、最終稿の人間によるレビュー証跡、およびR&D生データの絶対的なトレーサビリティ確保という「3つの防衛線」を即座に構築する。

Gemini Notebook

各地の「知的財産保護中心」を震源とする摘発ドミノ（2025～2026）



【業界初の禁止令】南京IP保護中心（2025.6.4）

予備審査書類にAI特有の「程式化（定型化）」した痕跡を確認。 AIによる技術内容や実験データの「直接生成」を全面禁止する通知を発出。

【連続追及の定着】南京IP保護中心（2026.1-3）

「典型品質問題通告」にて、4つの代理機構がAI生成技術内容に関与したと指摘。「非正常出願」の疑いとして定期的な公示および・威嚇運用が定着。

【実名での厳罰化】寧波IP保護中心（2025.9）

1件600～ 0,800元で販売される「AI特許作成ソフト」の闇市場が暴露。事業者は行政約談（指導面談）を受け、技術的防止措置を命じられる。

【灰色産業の摘発】安徽省（経済参考報）（2026.2）

1件600～8,800元で販売される「AI特許作成ソフト」の闇市場　が暴露。事業者は行政約談（指導面談）を受け、技術的防止措置を命じられる。

Gemini Notebook

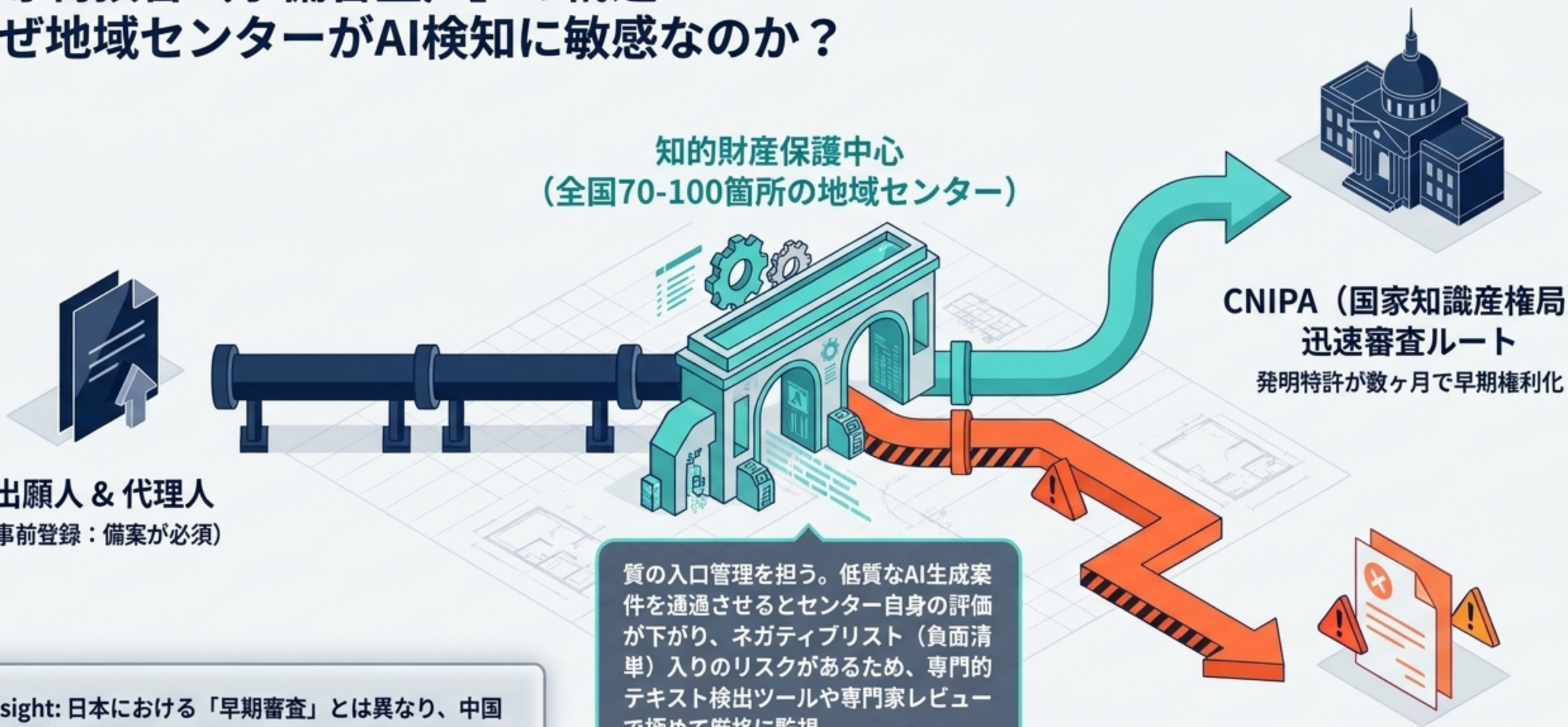
寧波事件に見る「両罰的」構造：代理人への丸投げは免責事由にならない

事件の事実概要	代理機構の処分	出願主体（企業）の処分
Case 寧波× Wei＋宁波合×君衡 予備審査案件にAI生成内容が混入。代理人は真実性を検証せず、出願主体は虚偽資料を提出したと認定。	予備審査サービス1年間停止	備案登録取消・3年間再登録不可
Case 寧波× Hai＋寧波協×釦 代理人側がAI生成内容を一方的に提供。出願主体は内容に対する「検査義務を懈怠（怠った）」と認定。	予備審査サービス1年間停止	警告および検査強化指示

当局のスタンス：「代理人が勝手にAIを使った」という弁明は通用しない。
出願主体には提出物に対する絶対的な検証義務（QC責任）が課されている。

Gemini Notebook

「専利預審（予備審査）」の構造：なぜ地域センターがAI検知に敏感なのか？



Insight: 日本における「早期審査」とは異なり、中国の予備審査は地域センターが独自のペナルティ権限を持つ「関所（品質ゲート）」として機能している。

Gemini Notebook

規制の境界線：「AIの活用」ではなく「無検証での直接生成」が弾かれる

【NG】程式化（定型化）とハルシネーションの直結ルート



AIエージェント / LLM
（OpenClaw, 自動作成ソフト等）

予備審査提出

検知される致命的欠陥：程式化された不自然な文章構造、論理破綻、
AIによる架空の「もっともらしい数値」を用いた実験データの捏造。

【OK】検証可能性とトレーサビリティの確保ルート



AIツール
（アイデア補助、検索、翻訳支援）

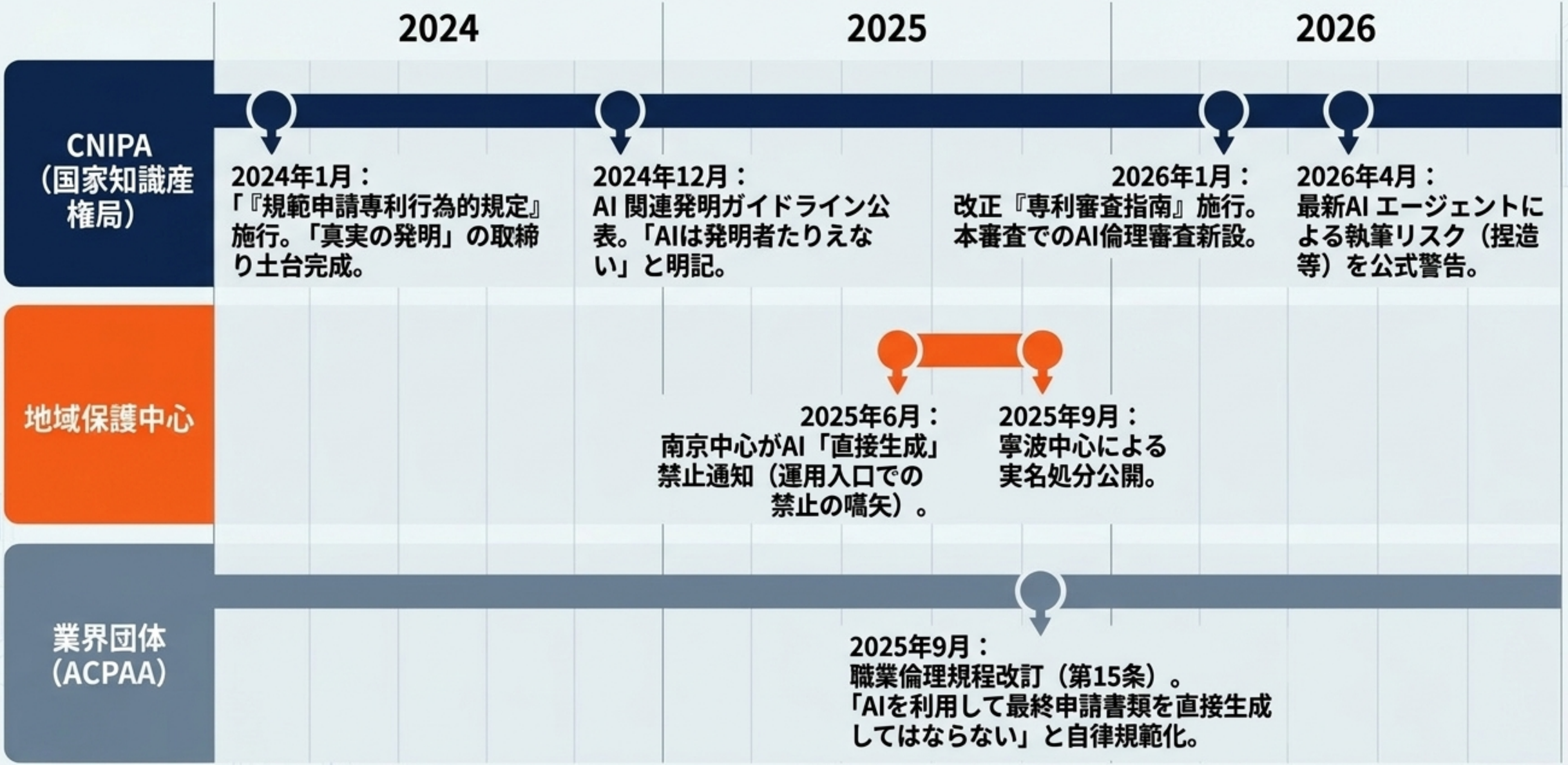
資格代理人・発明者によるレビュー
批判的検証、加筆修正、生データとの照合

予備審査提出

クリアランス条件：「真実の発明創出」に基づくこと。
最終出力の責任を自然人（人間）が負い、その証跡が残されていること。

Gemini Notebook

規制強化の包囲網：国レベルで完成しつつある「品質重視」への地殻変動



Gemini Notebook

【核心】問題の本質は「AI規制」ではなく「真実性と追跡可能性」への回帰



AI生成データ
- AIによるもっともらしい数値の生成
- 検証プロセスを欠いた研発証明材料

非正常出願の典型的要件
- 虚偽の実験データ
- 真実の研究開発（R&D）に基づかない出願

当局のロジックの解明：
中国知財当局は「AIを使ったこと」自体を罰しているのではない。AIによる直接生成は「検証・追跡可能性（トレーサビリティ）の欠如」を意味し、それは従来の「データ捏造（非正常出願）」と同義であると認定している。特に、実験データや研究成果説明におけるAIへの依存は、最も危険なレッドラインと見なされる。

Gemini Notebook

組織を守る3つの防衛線：
日本企業に求められる対中国・AIガバナンス

1
最終稿のヒューマン・レビュー体制確立

AIドラフティングツールを使用する場合、最終稿は必ず現地の「資格代理人」が明示的にレビュー・署名する体制を必須化。
レビュー日、担当者、修正差分のログ (証跡) を社内保存する。



2
R&D原本データの絶対的トレーサビリティ

AIが生成した「ハルシネーション数値」の混入を完全に排除。
中国代理人に対し、実験ノートや測定ログなどの「生データ（Raw Data）」を常に即時提示できるアーカイブ体制を構築。



3
代理人選定基準と契約条項のアップデート

ACPAA 2025年倫理規範（第15条）への準拠を宣言している事務所のみを選定。
業務委託契約書内に「AIによる最終稿の直接生成禁止」を明文化する。



Gemini Notebook

防衛線 Deep Dive: 「真実の発明」を証明するデータ・チェーンの構築

1 日本本社 R&D (Raw Data)

- 実験ノート、測定ログ、試作データ。
- AIによる補間や「それっぽい数値」の生成を厳禁。生データのままアーカイブ。

2 知財部門・現地代理人 (Verification)

- 代理人は提出前に原本データと明細書の数値を突合。
- ヒューマン・イン・ザ・ループの徹底。

3 予備審査 (The Quality Gate)

- 万が一、「予審品質告知書 (疑義)」を受領した場合の備え。



疑義に対し、即座に「追跡可能な原本データ」と「人間の介入証跡」を提出し、AI直接生成ではないことを立証する。

AI時代において、特許の価値は「文章の洗練度」ではなく「データソースへの遡及力 (トレーサビリティ)」に依存するようになる。

Gemini Notebook

代理人マネジメント：中国特許事務所向け 評価・監査チェックリスト

コンプライアンス体制の確認

- [ ] 中華全国専利代理師協会（ACPAA）の2025年改訂規範（第15条）の遵守を公式に宣言しているか。
- [ ] 事務所内で使用しているAIツールの種類と、その利用範囲（下書き補助、翻訳等）を透明性をもって開示できるか。

契約条項（SLA）の改訂

- [ ] 新規の業務委託契約に「AIを利用した最終出願書類の直接生成を禁ずる」条項が明記されているか。
- [ ] AI利用に起因して予備審査でペナルティ（出願主体の登録取消等）を受けた場合の、代理機構側の損害賠償責任が定義されているか。

インシデント対応ルール

- [ ] 保護中心から「予審品質告知書」や疑義照会を受けた場合、24時間以内に日本本社へ報告する即時エスカレーションフロー が確立しているか。

Gemini Notebook

今後の見通し：日米中「ダブルスタンダード」時代における知財戦略

短期 (～2026年末): 門前払いの常態化

保護中心レベルでの「典型品質問題」公示が定着。最新AIエージェントへの監視が強化され、AI直接生成を試みる案件への不承認・威嚇がピークに達する。

中期 (2027～): 自動監視と本審査への波及

非正常出願認定率（国策目標5%以下）達成のため、ビッグデータとAI検知ツールを組み合わせた自動監視網が本審査にも本格導入される。AI起因の倫理違反が明確な拒絶根拠として機能し始める。

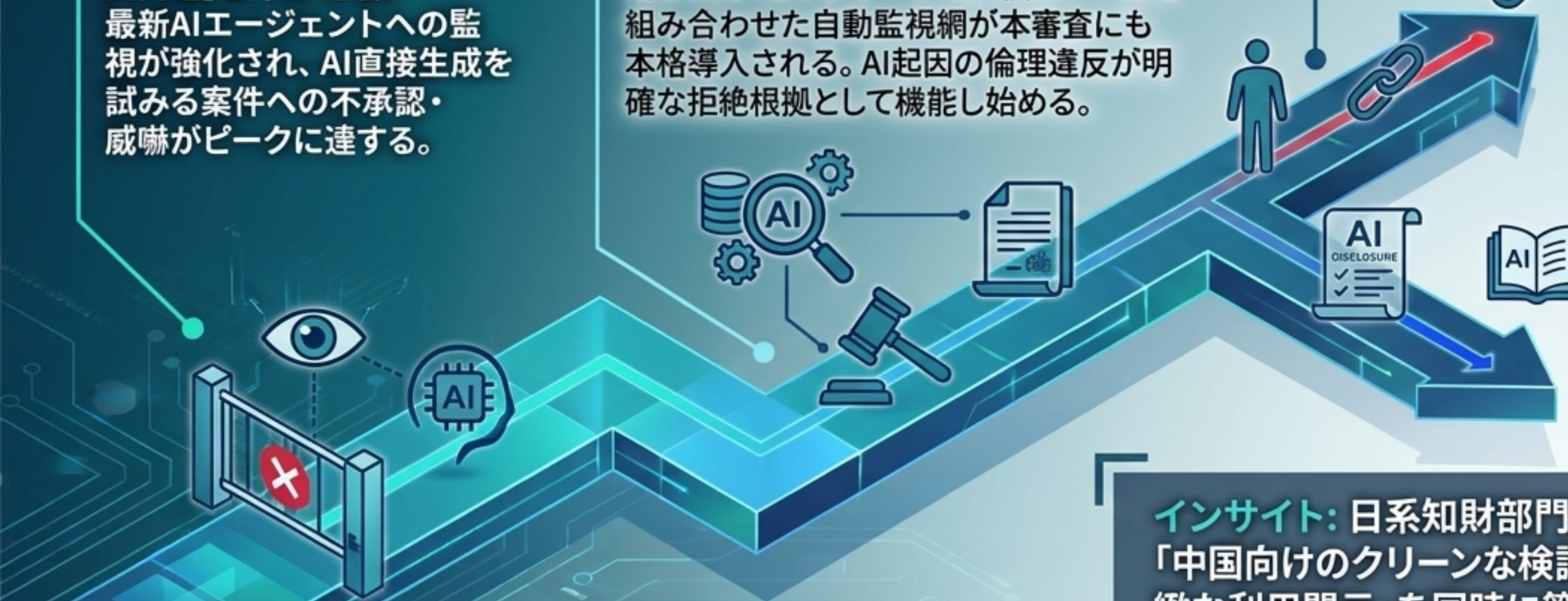
長期 (グローバル分断) : ダブルスタンダード管理の発生

[中国ルート]

「AIは発明者たり得ない」「最終書類の直接生成不可」の厳格化。徹底したヒューマン・トレーサビリティの要求。

[欧米ルート]

AI利用の許容と引き換えに、厳格な「AI利用開示ルール」の整備。



インサイト: 日系知財部門は、1つの発明に対して「中国向けのクリーンな検証証跡」と「欧米向けの精緻な利用開示」を同時に管理する、高度なプロトコル構築が求められる。

Gemini Notebook